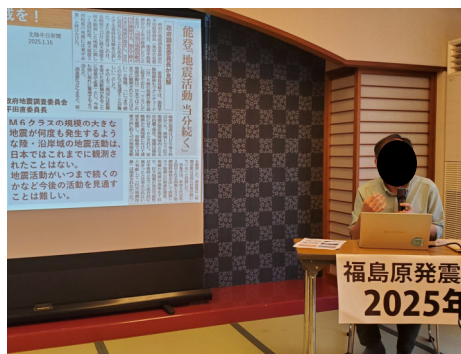


会 派 名 報告者氏名	社会みらい連合 佐藤 正典 星野 幸彦
種 別	☐ 調査研究 (☐ 行政視察) ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	福島原発震災情報連絡センター主催 研修会 及び 被災地スタディツアー
日 時	令和7年4月24日(木) 13:30 ~ 4月25日(金) 12:00
場 所	福島県いわき市常磐湯本町(研修会場:いわき湯本温泉古滝屋) 福島県 大熊町・双葉町・浪江町(スタディツアー)
調査項目等	・福島原発刑事裁判の最高判決、汚染土の全国拡散問題について ・福島第一原発沖合の海洋調査等について ・柏崎刈羽原発の再稼働に関して～新潟からの報告 ・能登半島地震から一年、避難計画について
概 要	【研修会】 ・福島原発震災情報連絡センターが主催する研修会に参加し、福島原発事故後の福島県の現状について状況把握するとともに、「柏崎刈羽原発の再稼働に関する課題」及び「能登半島地震を教訓とする避難計画」等についての報告を受けたのち、同研修会に参加した地方議員等と意見交換等を実施した。 現地報告1 福島原発刑事裁判の最高裁判決～汚染土の全国拡散問題 現地報告2 「たらちね」から～第一原発沖合の海洋調査 現地報告3 能登半島地震から一年 避難計画はどうなる？ 現地報告4 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働について～新潟から 【スタディツアー】 ・同センターが主催するスタディツアーに参加し、福島原発事故後の被害状況、復興状況等についての調査を行った。 中間貯蔵施設眺望→双葉病院→JR 大野駅前再開発→CUREVA 大熊・クマ SUN テラス→請戸小→請戸港・福島第一眺望→水素フィールド
所 感 等	【佐藤 正典】 原子力発電所の立地自治体を中心とした再稼働に対する議論、原子力発電所の安全対策、使用済核燃料の問題、非常時を想定した実効性ある避難計画など、原発の是非を含めた住民の関心は極めて高い。 そうした一方で、福島原発事故から十数年が経過している現在においても、様々な課題が山積み、福島県民が事故以前の安心・安全の暮らしを取り戻すまでには、今後更に多くの時間を要するであろう。 原発立地自治体の議員のみならず、各地の地方議員と原発をめぐる課題や現状を共有し、議論していくことは大変重要である。 フクシマの現状を理解し、被害の状況を風化させることなく、確実な復興を成し遂げなければ、国の原子力発電政策の推進などあり得ない。 【星野 幸彦】 2011年の東日本大震災・福島第一原発事故の直後から、福島原発震災情報連絡センター主催の本研修は毎年行われている。全国自治体の議員を中心に会員は当初200人を超えていたが、年月が経つに従い、次第に減少してきており、現在では半減している。 コロナ禍ではリモート開催で行われるなどしたため、実際の参加は5回目となるが、毎年違った自治体議員との意見・情報交換が行われており、都度新しい原発課題によって本会が継続されてきているのだと感じている。 特に今回は汚染土の全国拡散問題について、拡散予定先である東京都や、つくば市等の議員の参加が目立っていた。いずれにしても、福島原発事故は終わっておらず、被害を風化させてはならないと改めて強く思った。

【研修会】



【被災地スタディツアー】



